



裏面

太田川の河原の石ころの生い立ち

ふじのくに地球環境史 ミュージアム 客員研究員 青島晃 (編集局員)

てくてく太田川

第25号 2026 令和8年3月1日 発行部数 113,000部

特集



第13回 青島晃の 地質学講座 青島晃 (編集局員)

太田川の河原の石ころの生い立ち

写真1は太田川中流にある、森町「太田川親水公園」東側の河原の石ころの写真です。色や粒の大きさ、硬さなどから、次の4種類に分けることができます。

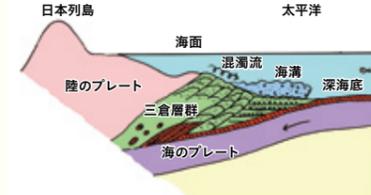
①泥岩：泥が固まってきた岩石で、黒くつるつるしています。②砂岩：砂が固まってきた岩石で、灰色や黄土色をしています。③れき岩：石ころが固まってきた岩石で、一見コンクリートのようにも見えます。

④チャート：深い海の底で放散虫と呼ばれる微生物やケイ酸分が積もってきた岩石です。色は灰色や赤色、青色などで緻密で硬いことから昔は火打石として利用されました。

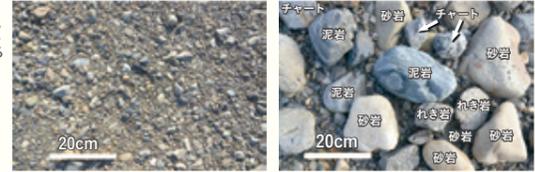
写真2は太田川下流の磐田市和口橋北側の河原の写真です。石ころが下流に運ばれる間に水の流れにより削られて、小さくなっていることがわかります。

さて、これらの石ころは、どのようにしてできたのでしょうか？太田川上流の森町北部には、三倉層群と呼ばれる海でできた地層が広く分布しています。

この地層は今から約四千万年前に、海溝付近や深海底で堆積しました。図1は、その当時の日本列島から太平洋の地下を描いた図です。その後、このような堆積物がプレートの沈み込みにより日本列島に付け加わって硬い岩石となり、約三百万年前から隆起を始めて赤石山脈になりました。最後にこれらの岩石は、侵食されて太田川により運ばれ、河原の石ころになったのです。



▲図1 三倉層群の堆積当時の様子「日本列島の誕生」(1990)に加筆修正



▲写真2 下流の河原(磐田市和口橋北側)

▲写真1 中流の河原(森町「太田川親水公園」東側)

充電しにきてくれませんか。 編集局員 野中大輔

太田川の自然や文化、ヒトや生き物との出会いなど、あらためてそのポテンシャルの高さを感じています。歩いて「てくてく」はもろろん、河川堤防をバイクや自転車ですべてく、出川さん、ぜひ「さすらい」の旅に来てみてはどうですか？ドローンの撮れ高もバッチリですよ。ちなみに、この日のヘルメットは「クラウンメロン」でしようか。みなさん、「充電」の準備をお願いします。



▲太田川の桜並木

リバーフレンドシップ 編集局員 武藤君幸

リバーフレンドシップとは、県が管理する河川の一定区間において、住民や利用者等が清掃・除草等の河川美化活動を行うことにより、「みんなの川を守っていく」という意識を向上させ、身近な環境保護に関する意識啓発を図ることを目的とする取組です。私の勤務する会社では、様々な工事で関わりのある河川の美化活動に、少しでも寄与出来ればと思いを表明しました。効果の良い作業方法を検討していたところ、フレンドシップに参加している団体には、県より「リモコン式草刈機」のレンタルができることを知りまし。機械を借りることにより、効率の良く、また建設業者としての特性やスキルを活かし、河川除草作業を実施しました。川は誰のものでもなく、みんなのもので。このような取組を知っていたことで、活動の輪が少しずつ広がって行くことを期待したいと思います。



▲リモコン式草刈機を操縦する様子

人と川のつながり

編集後記 古来、川は流域の風土や文化を育み、人間の生活に密接に関わってきました。しかし、高度経済成長期には汚濁物質が川へ流れ込み、水質の悪い川がいたるところに見られるようになりました。その結果、人と川のつながりは失われ、川は危険で近づいてはいけないところへと変わってしまつたと聞いています。また、テレビや新聞では全国各地で発生する水害が度々取り上げられ、川は危ないというイメージを抱く

方も多いのではないかと思います。てくてく太田川第25号では、「川に近く」というテーマで、川での楽しみ方について取り上げました。川の水に足をつけること以外にも、川を愉しむ方法は実に様々です。人間に恩恵をもたらす、時に災いをもたらすという川の二面性を十分に理解した上で、川は危険というイメージだけに捉われず、川に一步近づいてみませんか。

袋井土木事務所 河川改良課 編集局員 今川 聡

川遊びのススメ

編集局員 辻 克美

川は、わたしたちの暮らしに深く関わりながら、季節ごとにさまざまな表情を見せてくれます。今回はこの川と、より良い距離でつながるための楽しみ方を取材しました。「川遊びのスペシャリスト」に教わる川の遊び方と、「日本野鳥の会遠征」の皆さんが語る生き物たちの営み。楽しみ方を学び、いのちを知ることで、川との関わり方はぐっと豊かになります。

県内でも有数の支川を持つ太田川。太古より絶えず流れを変えながら、時に穏やかに生活に癒しを与えてくれる一方、時に荒れ狂い人々に恐怖を与えてきました。最近、身近な川が疎遠になつてきているように感じます。そこで今回は、改めて川の魅力を身近で触れてみようかと、森町の「太田川親水公園」を訪れました。

たき火の炎を見て癒しを得るように、川の流れを見るだけで癒されます。四季折々の生き物や植物を見て、少し忘れかけていた季節感を味わうことができます。水に触れるだけで、どこか懐かしさを感じ、一歩足を入れてみたくなるでしょう。魚とりをして観察するのもよし、水の中を水鏡で覗くもよし、流れに体を預けるもよし。

今年は誰かと一緒に、身近な川へ出かけよう。普段の生活では得られない何かを感じるはずですよ。



▲河川敷で魚を探す様子



PICK UP 川遊びの心得

- ①子どもだけで行かない。
 - ②大人は子どもから絶対に目を離さない。
 - ③流れの早い場所や深い場所には近づかない。
- 川へ降りるには、ススキやトゲのある植物に注意し、川に入る時もコケで滑らないよう気をつけましょう。
- 川から多くを学びつつ、ケガのないよう安全に遊びましょう。

川人(かわんちゆ) 辻 克美



図書カードが当たる!! 2026てくてく太田川ものしりクイズ

太田川水系周辺に生息する野鳥の種類は？
①約150種類 ②約200種類 ③約1000種類

正解を応募いただいた方の中から図書カード3,000円分を抽選で10名の方にプレゼント！ふるって応募ください！

【応募方法】上記QRコードからWEBで回答または電子メール、FAX、郵便ハガキのいずれかの方法で、必要記載事項をご記入のうえ応募してください。応募先は、右記の静岡県袋井土木事務所 河川改良課「ものしりクイズ応募係」まで

【記入事項】①クイズのこたえ ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤職業 ⑥電話番号 ⑦「てくてく太田川第25号」をどこで入手しましたか？
▽新聞配達 ▽自費・広報 ▽公共施設 ▽観光施設 ▽その他(場所を記載) ⑧第25号を読んで新たな発見や感想等

【応募締切】2026年5月31日 当日消印有効

【当選発表】当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報につきましては、管理責任者を定め、紛失や漏洩が発生しないように努めます。また、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

編集局員を募集しています!

編集会議では、新しい出会いや知識共有の場を提供します!! 磐田市、袋井市、掛川市、森町にお住まいの方、編集会議に参加しませんか?

てくてく太田川のバックナンバーはこちらから

発行日 2026年3月1日
発行者 静岡県袋井土木事務所
〒437-0042 袋井市山名町2番1号
TEL 0538-42-3289 FAX 0538-43-0919
E-mail:fukudo-kasen@pref.shizuoka.lg.jp
URL:http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki/fukuroi/

編集 太田川情報編集局 袋井土木事務所 河川改良課内
編集局員 磐田市 青島 晃 安岡美恵子 大石佳典 増田 晃
袋井市 浅羽俊光 浅羽桃子 今川 聡 鈴木敦子 鈴木恭平
鈴木仁美 門名親宏 寺田公高
掛川市 安藤凱夫 鈴木健大 野中大輔 三谷真史 武藤君幸
森町 岡庭 彩 辻 克美

ご意見、ご感想をお送りください。また、太田川水系の川に関する情報や、感動的な写真もあわせて募集します。太田川情報編集局事務局まで。

ブログ・Facebook もやっています!!



太田川と原野谷川の合流地点
二瀬西橋 二瀬橋 二瀬多目的運動広場
磐田市 袋井市
和口橋

野鳥と水辺

取材協力：日本野鳥の会 遠江

太田川水系には隠れた魅力がいっぱい!! 面白くなってきたぞ~

太田川水系周辺には約200種類の野鳥が

太田川水系は、野鳥たちにとってまさに楽園。清らかな川には、小魚・カニ・エビ・ハヤ・ハゼ・ボラ・アユなどが群れ、鳥たちの絶好の「漁場」となっています。この地域周辺には約200種類の野鳥が確認されているそうです。和口橋周辺でも四季を通じてさまざまな鳥たちを観察することができます。鳥たちが食事をし、羽を休め、子育てをするそんな小さなドラマが繰り返り広がっています。鳥たちのさえずりを聞きながら散策を楽しみました。

和口橋付近で撮影された貴重なシーン



- ① 河川合流と中洲の風景
太田川と原野谷川の合流地点には広大な中洲が。林や葦原には、キツネタヌキ・イタチ・カワガニ・ヘビなどの姿も。
- ② サギやコノトリ、白鳥も登場
干潮時には浅瀬に姿を見せ、魚を狙うシーンが撮影されています。
- ③ 猛禽類の狩り!
小笠山・獅子ヶ鼻山から飛来するオオタカ・ハヤブサ・ミサゴが大木に止まり、時にはサギまでも襲うことが。飛行パターンを使い分けて獲物を仕留めるその様子は、まさに自然の王者。

PICK UP

富士山を望みながら、自然とつながる時間を

和口橋からは、栗ヶ岳と重なるようにそびえる富士山も一望できます。心が静かに洗われるような景色です。近くの二瀬多目的運動広場では、探鳥しながら散策も楽しめます。私たち人間も、鳥も、魚も、すべてこの川と共に生きる仲間たち。太田川の自然とこの川にふれて、共生の大切さを感じてみましょうか?

日本野鳥の会 遠江(支部)
日本野鳥の会は、探鳥会や写真の展覧会等のイベント企画の他、環境保全に関わるさまざまな活動を行っています。
<http://www.wbsjtm.com/>

源流、かく語りき

小泉八雲の著書「怪談」に「鏡と鐘」という話があります。その話の舞台は「栗ヶ岳」。その山の麓から太田川水系の逆川が始まっています。そこには他にも民話が伝えられていて、その昔日照りが続いたため村人たちが川縁に石で作った地蔵尊を祀ったところ、川の水は絶えることなくいつも流れるようになったそうです。その地蔵は果たしてあるのだろうかとか川縁に降りようとしましたが、数やら砂防ダムやらが邪魔をして目的地へは中々辿り着けず、結局降りたのは水の流れ出す源流地でした。源流のチヨロチヨロ流れ出る水面を見たら、なんだかその景色に民話が遠い昔から重なってくるようで、気づくと水の音を古の語りのように聴いていたのでした。



編集局員 鈴木 健太

川と緑に囲まれた「ならこの里」

ならこの里は、原野谷川の隣に位置する自然豊かなキャンプ場です。ここでは、様々な自然の楽しさ、美しさに触れながらキャンプを楽しむことができます。原野谷川は、とても澄んできて綺麗な水が流れており、サワガニや小魚などの生き物が生息しています。幼い頃は、友達と川に入ってちやぶちやぶと水の冷たさを楽しんだり、揺れている吊り橋を渡って遊んだりすることがキャンプに行くときの楽しみでした。また、施設には「ならこの湯」が併設されており、露天風呂のある天然温泉を楽しむことができます。



編集局員 浅羽 桃子



自然とキャンプ、温泉を楽しみながらゆったりと理想的な休日である夏に come back! です。

探してみよう! 太田川水系の魅力。



水道水はどこから?

真夏に、蛇口をひねって飲むコップ一杯の水は格別だ。水道水が、どこでもそのまま安心して飲める国は、世界でたった九カ国ほどしかないそうだ。



編集局員 大石 佳典

橋逸勢の供養塔

太田川に架かる市場橋の南の袋井市山梨の用福寺には橋逸勢の供養塔が祀られています。遺唐使として空海らと帰国後の承和9年(842年)に皇位継承に関わる政変で連座して伊豆国に流される途中「遠江国板築駅にて病死」と記録が残されています。後に免罪とされ逸勢の娘妙沖が供養したと言われています。ただ、終焉の地は三ヶ日説もあり、今も論争となっています。こんな身近に日本の三筆橋逸勢の供養塔があるなんて驚きではありませんか。



編集局員 鈴木 敦子

二筋の流れと田原小学校

磐田市立田原小学校は、磐田原台地の古墳群を見上げる旧太田川の河川敷上にあります。以前は太田川と原野谷川にはさまれた場所に建てられていましたが、昭和55年に現在の位置に移りました。小学校がある田原地区の名前は、太田川と原野谷川の一文字に由来します。また、校歌の三番には「二筋の太田原野谷水清くたまとすみつ」の歌詞が見られます。地域の河川を二つも読み込んだ校歌は珍しく、歌うことにふるとたちの心にしみ込んでいくと思えます。参考：開校百年記念誌「田原小の百年」



編集局員 増田 晃

川辺の小動物

川岸の草むらに住む小動物は、とても可愛い姿をなかなかみせずひそかに住みつき生きている! キジをみた人もいる。タヌキ、キツネ、ハクビシンetc. 薄暗くなるソートと草むらから出て食事し、昼は静かに草むらに潜んでくらす。キツネやタヌキ・ハクビシン達がいちと手でトマトを持って食べる姿はかわい!! せっかく育てた作物をとられるのはくやしいが...



編集局員 安間美恵子

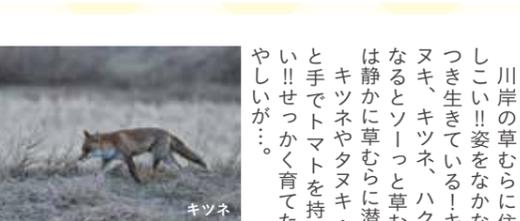
日本の飲料水は、美しい川の水に加え、高度な浄水技術・インフラと、それに関わる多くの方々によって支えられている。当たり前のように飲んでいる水。川と技術を守ることは、地域の命を守ることに



寺谷(てらだに)浄水場※マップ参照



日本三筆 橋逸勢供養塔



写真提供：増田 裕さん (野鳥の会)